

至近距離で楽しめるプラザ寄席

——ロビーで味わえる本物の芸を——

二〇〇四年から始まったプラザ寄席。昨年の春風亭一之輔師匠の独演会で、なんと三十回を迎えた。寄席のプロデューサーをしていたら、和田敏典さんに、落語会を開催するきっかけや、魅力についてお話を伺った。

——一之輔師匠の独演会、大盛況でしたね！いつも楽しませていただいています。最初に始めたきっかけは何だったんですか？

今でこそ、落語会はあちこちで、いろんなホールで開催されていますが、当時（二十年ぐらい前）は、置賜全体どころか山形県内でも落語会をしているところは、あまりなかったです。一番最初に聴いたのは、南陽市で開催された、とある落語会。柳家喬太郎師匠と神田北陽師匠（現・神田山陽）の公演でした。そこで「生」の落語の面白さに目覚めて……（笑）。それから置賜でも聴ける機会を作りたい！と強く思っただけです。

——柳家喬太郎、柳亭市馬、春風亭一之輔、入船亭扇辰、そうそうたる師匠たちが来ていますが、どうお願ひしているんですか？

最初の頃は、SWA（創作話芸アソシエーション・二〇一一年に解散）のメンバーであった柳家喬太郎師匠、林家彦いち師匠、もされていきました。いも煮の具について熱く語る山形県民について（笑）。送迎の時間や打ち上げなど、噺家さんと一緒にいる時間がとても楽しいです。——この二十一年で、お客様の客層は変わりましたか？

ずいぶんと変わりましたよ。最初の頃は、男性やお年寄りの方が圧倒的に多かったです。今は、女性や若い方が多くなりました。「落語心中」という漫画や、NHKドラマ「ちりとてちん」、「落語THE MOVIE」などのテレビの影響かな。落語ファン裾野を広げたと思います。そういった

三遊亭白鳥師匠などのつながりで次々と呼びました。私自身としても、マスコミでたくさん取り上げられたり、有名な大御所よりも、若手や中堅、勢いがあり、これからどんどん伸びるぞ！と予感させるような噺家さんがいいなと。それに、自分で実際に聴いて、惚れた噺家さんと呼ばれるか、来年お願ひします」と直接お願ひに行ったりすることもあります。

——毎回、噺家さんたちの枕のネタに使われているのが、七百席の「ホール」ではなく、あえて百席程度の「ロビー」公演ですよね。

そう（笑）。噺家さんもおせじではなく、ロビー公演の方が気に入っているんです。東京の落語定席といえば、「浅草演芸ホール」「新宿末廣亭」「上野鈴木演芸場」「池袋演芸場」の四つがありますが、「どこが一番好きですか？」と噺家さんに訊いたところ、意外にも一番小さい百人程度の

映像は、江戸の文化がわからない今の私たちの想像の助けとなります。具体的に落語の理解を深めていると思います。ただ、落語の本当の魅力は、やはり「生」の人間が「生」の人間に伝えることにあります。同じ時間と空間を、このお客様と一緒に体感できるライブ。だから価値がある。

——次回の桃月庵白酒独演会で三十一回目となりますが、今後の展望（笑）は？

扇辰師匠に言われていることがあって。「こういった落語会を開催していると、どんどんと大きいホールでしたくなるでしょ？

和田 敏典（わたしのり）

1959年、山形県長井市生まれ。現在、宮城県石巻市在住。佐佐木幸綱氏が主宰する短歌結社「心の花」会員。2005年に第一歌集『愛しいひと』（神谷書房）、2013年に第二歌集『海に降る雪』（神谷書房）を出版。2018年10月には『港の町の散歩道』（神谷書房）を出版。（プラザ窓口にて販売中）
特定非営利活動法人暹筆堂文庫プロジェクト理事。川西町フレンドリープラザと「プラザ寄席」を共催。



プラザ寄席 —これまでの歩み—

- 2004年(平成16年) 6月 水無月落語会「喬太郎づくし」
- 2004年(平成16年) 9月 講談「神田山陽独演会」
- 2005年(平成17年) 2月 「林家彦いち独演会」
- 2005年(平成17年) 5月 「林家喬太郎独演会」
- 2005年(平成17年) 9月 「入船亭扇辰独演会」
- 2005年(平成17年) 11月 「三遊亭白鳥独演会」
- 2006年(平成18年) 4月 「柳家花緑独演会」
- 2006年(平成18年) 7月 「林家彦いち独演会」
- 2006年(平成18年) 10月 「柳家喬太郎独演会」
- 2007年(平成19年) 1月 「三遊亭白鳥独演会」
- 2007年(平成19年) 5月 「柳亭市馬独演会」
- 2007年(平成19年) 9月 「柳家喬太郎独演会」
- 2008年(平成20年) 4月 「柳亭市馬独演会」
- 2008年(平成20年) 7月 「講談神田山陽独演会」
- 2008年(平成20年) 11月 「林家彦いち独演会」
- 2009年(平成21年) 6月 「柳亭市馬独演会」
- 2010年(平成22年) 5月 「柳亭市馬独演会」
- 2011年(平成23年) 5月 「柳亭市馬独演会」
- 2012年(平成24年) 5月 「入船亭扇辰独演会」
- 2012年(平成24年) 9月 「柳亭市馬独演会」
- 2013年(平成25年) 5月 「柳家喬太郎独演会」
- 2014年(平成26年) 6月 「入船亭扇辰独演会」
- 2015年(平成27年) 5月 「入船亭扇辰独演会」
- 2015年(平成27年) 9月 「柳家三三独演会」
- 2016年(平成28年) 6月 「春風亭一之輔独演会」
- 2016年(平成28年) 9月 「柳家三三独演会」
- 2017年(平成29年) 5月 「春風亭一之輔独演会」
- 2017年(平成29年) 12月 「柳家喬太郎独演会」
- 2018年(平成30年) 5月 「入船亭扇辰独演会」
- 2018年(平成30年) 9月 「春風亭一之輔独演会」

第31回 プラザ寄席 2019/5/12(日)

桃月庵白酒 独演会



スパツ、スパツとキレのある落語。その中に毒も持っているが、不愉快感は全くない。大器晩成型の落語家。赤丸急上昇中！

この春、川西町にやってくる！お聴き逃しなく！

決して、ホールではしない方がいいですよ」と（笑）。それを肝に銘じて、このスタイルを淡々と続けていく。この落語会の魅力を繰り返し、繰り返し、地道に続けていきたいと思えますね。——年二回の開催とすれば、あと十年で五十回です。これからも、会場はもちろんプラザのロビーで（笑）、一緒に楽しんできましょうね！

（インタビュー：構成 あらさわ）